

## インド通信

2025年11月

玉東町グローカル卒業生

澤村啓之

インド通信第21号です。

今回は街中の肉屋、魚屋、八百屋のお話です。

インドでは日本のように買い物がスーパー1軒で済むということがありません。

肉は肉屋で、魚は魚屋で、野菜や果物は八百屋で調達、といった具合です。

初めのうちは面倒くさくて仕方がありませんでしたが、慣れてくるとこれが楽しくなるから不思議なものです。

お店ごとに扱っている商品に少しずつ違いがあり、また店主の人柄にも違いがあるので、品物選びや値引き交渉も楽しみの一つです。

インドは世界中で一番個人事業主が多いと言われています。こうやって肉屋、魚屋、八百屋という具合に一軒一軒分かれているのがその理由かもしれません。

ただ、ちょっとウーッとなってしまうことも少なくありません。

チキン、キンレス、1Kgと言って鶏肉を注文すると、店主が目の前の鳥かごから鶏を1羽取り出して店の奥に連れていきます。泣きわめく鶏の声をひとしきり聞いた後に生暖かい鶏肉を手渡されるとちょっととなあ？！と思ってしまいます。

また、魚屋さんで大量のハエが魚に止まっているのを見るにつけ、これまたちょっとなあ？！と思ってしまうのでした。



肉屋の吊るし肉と鳥かご



魚屋はあまり見かけません



八百屋には珍しい果物が